

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292300017		
法人名	有限会社 かづみ		
事業所名	グループホームあんしん勝浦上植野		
所在地	千葉県勝浦市上植野925-1		
自己評価作成日	令和3年3月2日	市町村評価書受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生		
所在地	千葉県習志野市東習志野3-11-15		
訪問調査日	令和3年3月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・田園風景に囲まれた環境の中、住み慣れた地域にて共に支え合い、四季を感じる思い出作りに努めております。 ・目の前に広がる自社農地にて、季節の風を肌で感じながら米作りに参加し、耕作する楽しさ、食する喜びを感じ、安心出来る米を提供しており、食の安全を図っております。 ・季節に合った地域行事には積極的に参加し、地域の方と触れ合う事で、その人らしさを大切にして、穏やかに過ごせるよう支援しています。 ・毎月の行事予定を明確にし、個別に発信して、家族様との連携を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「人間として尊重し、笑顔とぬくもりのある穏やかな毎日を送れるケア」を推進するための当事業としての理念に掲げ、それを職員が意識して実践する良い風土を作りだしている。過去5年にわたり外部評価を続けてきているが、毎年、少しずつ改善されている所が見られ、今年度においては一昨年の台風被害での停電に対する対策として自家発電装置の導入や非常用エアコンの設置が行われており、一段と安心で安全なイメージが出来てきたように感じられる。又、現在、長期にわたり新型コロナウイルス感染防止対策で、家族面会や外出支援の自粛等で大変な思いをされているスタッフの方々のご苦労が、インタビューを行っている中で、言葉の一つひとつに感じられ、頭の下がる思いであった。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かかっている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「個人を尊重し、安全で安心できる、楽しく美しい生活の場を、地域と連携の中で、和の心を持って確立する。」という理念を朝礼(申し込み)時、職員一同再確認し、意識して業務に当たっている。	法人の基本理念とは別に、事業所の運営理念を持っている。これらをリビング等にも掲示し、申し込み時に唱和し共有している。日常の色々な出来事の場面において、一人の人間として尊重してケアすることを確認することで、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月2回地域区長様来訪時、情報を共有し、コミュニケーションを図っている。散歩の際、地域の方々とあいさつを交わし交流している。	日常での散歩時には住民が大きな声で挨拶して話しかけてくれ、農家の人からお花をいただいたりすることもある。また、区長さんが月に2回広報誌を持って来た際に、ホームの状況を聞いてくれる。区長さんは困りごとなどを役所に要望を届けてくれ、街灯の設置などが実現した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に、地域の方々に参加して頂き、活動内容をお知らせする。 利用者様も会議に参加し、交流している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実施、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長・区長代理を始め地域の方、市役所高齢者支援課の職員にて意見交換を行っている。	コロナ禍のため、行政、区長、家族など外部の参加を見合わせ、2ヶ月毎に内部職員で開催している。内容は今までと同様で、ホームや入居の状況、意見交換、利用者個々のケアについて話し合っている。開催に当たっては、利用者家族に意見や要望を電話で聞いているが、あまり出てこない。	ホームの状況を理解してもらうためにも、議事録は以前の外部参加者にも配布することが望まれる。ただし、利用者の個人情報に関する記事の取扱いには注意が必要。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所高齢者支援課担当者に相談に行き、意見を伺っている。	高齢者支援課には変更や更新の手続きのために訪問し、入退院時の加算などについて解らない点があれば相談している。また、電話やメールでの問い合わせや相談を日常の中で行っている。地域包括係とは空室情報の交換や、事情による急な入居への要請に対して協力をするなどの関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関する会議(3ヶ月に1回)を行い、声かけ・見守りの強化をし、身体拘束の無い支援を実践している。 玄関は防犯と安全上の理由により夜間のみ施錠している。	研修会は職員会議の場で実施している。「身体拘束適正化委員会」は3ヶ月毎に開催し、拘束に当たるかどうかの話し合いをしている。そこでは事例を取り上げて対応についての実践前後についてもフォローし、拘束のないケアに取り組んでいる。スピーチロックに関しては職員間で注意し合える風土ができています。	

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内勉強会を開き職員全員研修内容を共有する。また、資料等を活用し、職員に教育するとともに虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部会議を行い、成年後見制度を十分理解し、必要に応じて活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用申し込み時に契約書等の説明を行い、理解していただいた上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時・及び手紙にて近況を報告し、意見交換要望を聞き定期的に会議を設けている。	家族とは、お手紙に写真を入れて送った後にくる電話や、受診のために迎えに来た時に意見交換をしている。不定期ではあるが請求書に「要望・意見のアンケート」を同封して収集している。また、コロナ禍で面会機会が少ないため、回答のしやすさ等の工夫や実施回数を増やす計画でいる。	家族に安心を届ける良きツールとしての「あんしん便り」が中断しているが、作成時間や内容を工夫して、毎月の発行として復活することが期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議を定期的実施し、職員の意見や提案を述べ意向や希望に沿うように努めている。	職員は日常的に管理者に意見や提案を出しており、それらを運営に生かしている。行事などの企画は職員会議で意見を出し合いながら決めている。管理者は職員の態度などの変化に気が付いた時に、「困っていることや意見、要望」について個人面談を行い、意思の疎通を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務希望を受け入れるようにし、働きやすい状況になるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	リモート研修に積極的に参加している。研修資料をまとめ職員同士共有し、職務に活かしている。		

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列法人の運営する施設訪問を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心を感じられるように寄り添い、コミュニケーションを計り、希望に添えるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との話し合いで不安、要望を聞き、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族との話し合いで優先順位は何かを考え、状況に応じ提案するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを取りながら、利用者立場に立った対応を実施している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在の状況を説明し、会話の流れの中で、本人と家族の話がスムーズにいくようサポートしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の馴染みの方、近隣に住む親戚の方、友人の方、面会に来られるので職員が良い関係を築けるよう努めている。	コロナ禍で面会制限があるため知人などの面会は無いが、親戚の人が手作りのものを届けてくれたりもする。勝浦市内の利用者が多いので、車で毎月の定期受診に行く時には、海を見てもらおうようにしている。日常の会話で出てきた「官軍塚」などの思い出の場所に職員がドライブに連れて行くことで、大変喜んでもらっている。	

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の相性を見ながら配慮し、レクリエーションを通じて関わり合いを持てるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、施設等に入所された方は、訪問を行っている。家族の方に手紙・電話などで関係を保っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族から意向を聞く等し、日々の会話の中から把握できるように努めている。	入所段階では、家族の意向は理解できるが本人の思いや意向を把握することは難しい。週1回ケアマネジャーが訪問してきて本人や職員にモニタリングを行い、徐々にケアプランを充実していく。本人の意思も徐々に聴けるようになってきており、3カ月後のプラン見直しまでに完成させる。その後は変化に応じた見直し修正を行っていく。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの聞き取りや、他のサービス事業所の情報提供書を参考に把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルサイン、排尿、排便状況の把握、歌唱、描画、料理等を勧めて様子を見る等して現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	記録や気づきを基に定期的な会議にて検討し、家族、本人の要望を取り入れ介護計画を作成している。	介護計画については、職員やケアマネ、訪問看護師を含め常に携わることが出来る状態にあり、管理者による家族とのコミュニケーションにより3カ月単位に見直しを行っている。半年に1回は全員が情報共有出来る様、担当者会議での意見交換や毎月の職員会議にて意見収集を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、申し送りノートを職員間で情報共有できるようにしている。		

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況に応じて職員からの提案など取り入れ柔軟な対応が出来るように心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩にてゴミを拾い地域の美化に貢献出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関だけでなく、利用者の必要とする医療機関への受診にも対応している。	利用者の健康管理は毎月提携医への通院支援を行っており、週に1回は訪問看護師によるバイタルチェックや問診を行っている。看護師は元提携医療院にいらした方で、ドクターとの情報交換も十分出来ている。異常が有ればすぐに対応出来る体制にあり、家族も安心して任せただけの状態にある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態や気づきを個別記録やノートに記入し、看護師の訪問時に相談し適切な看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と連絡を密に取り、入退院時に備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、緊急・終末期の方針及び、対応等十分に説明し話し合い確認書を頂いている。医療機関と連帯を図り、かかりつけ医師の指示を仰ぎ、出来る限りの支援が行えるよう取り組んでいる。	重度化、終末期のケアについては、医療との連携により適切な対応が出来る体制にある。職員についても、グループホーム連絡会にて定期的開催される研修に参加しており、福祉事業所で可能なケアの技術も習得しており、可能な限り対応を行ったうえで入院して頂けるように心掛けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命救急講習を受け、会議にて緊急時マニュアルを把握し、緊急時に備えている。		

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中・夜間と想定を変え避難訓練を行い、職員個々の防災意識を高めている。 反復練習にて任務の再確認をしている。	一昨年の大型台風の影響で、2台の自家発電装置を設置した。非常用のエアコンも設置しており、長時間の停電にも対応できるようになっている。その他、緊急時の対応として、今回利用者の自宅までの地図を整理し、家族との連絡もしっかりと取れるように体制を整備した。年2回の訓練の中では、カセットコンロを使ってご飯を炊く訓練も取り入れた。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が一人ひとりの情報を共有し、人格を尊重しプライバシーを損ねない言葉使い、声掛けを徹底している。	ホームでの生活が長くなると、職員との関係が馴合い的になり言葉使い等が乱れてくることがある。ホーム内でも職員同士の気づきがあれば注意し合える風土作りにより、改善している。特にスピーチロックによる身体拘束なども同様な方法で改善している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表せるように働きかけ、時にはこちらから提案をしながら自己決定が出来るように努める。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は特に決めていなく自由に過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	持ち込まれた衣類の中で、組み合わせなどに気配りを心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握できるように努めている。時には気分を変えウッドデッキにて、ランチを楽しんでいる。また、その方の出来る範囲でお手伝いをお願いしている。	食材は外注にて調達し、調理については職員が行う方法で提供している。コロナ禍で外出自粛を行っていることから、食事による楽しみを少しでも味わって頂こうと、暖かい日にはウッドデッキでお茶会やお食事を楽しむ為の調理を利用者と一緒に行う事もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューについては栄養士が管理しておりバランスの取れた食事を提供している。調理は職員が行い、利用者の個々に応じて形態を変えている。食事や水分の摂取量はケース記録に記入し管理している。		

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月1回、歯科医院の訪問診療を受けている。毎食後、口腔ケアを促し声掛け見守りし対応をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの日々の排泄パターンを把握し、時間にてトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を促し、支援しています。	日中はリハパンで過ごす方が殆どであり、夜間はオムツ使用者は現在1名のみである。排泄記録からトイレ誘導を行い、出来るだけトイレで排泄する習慣を身に着ける様、自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の把握、食物繊維の摂取を心がけている。自然排便のない場合、医師及び看護師に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日・時間はある程度決まりがあるが、天候気温を配慮し、その時の利用者の状況で対応している。	現在は週2回の入浴を勧めており、夏場になると3回に増やす。入浴は午後としており、早番の職員が帰る前に入浴介助を行うローテーションとなっている。一人でゆっくり入りたいという理由で、入浴拒否をする新しい利用者もいるが、タイミングをはかりながらお勧めしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室にエアコンを完備し、室温調整を行い希望者に湯たんぽを貸出し、衣類・布団の天日干しにより安眠して頂けるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を参考にしたり、薬剤師に相談や助言をもらっている。服薬管理ノートを作成し、職員全員共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備、片付け、洗濯物畳み等をお願いしている。歌や体操、外出等で一人ひとりにあった気分転換を心掛けている。		

自己	外部	項目	事業所様自己評価記入欄	外部評価、評価機関記入欄	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族に許可を頂き外出支援を行っている。利用者の希望にそって買い物に同行している。密を避け、季節を感じられるよう、場所に出向き気分転換を図っている。地域のイベントに参加し交流を計っている。	コロナ禍で遠出の外出支援は自粛しているが、敷地内でのお散歩は欠かしていない。時に、近場ではあるが公園まで車でお連れして、公園内での散歩なども行っている。又、同行して買い物をされる利用者も有り勝浦市内のスーパーや、ドラッグストアで買い物を楽しんで頂く。一度に多くの人数では対応できないので2名の利用者に2名の職員が対応する形となる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者自らお金の管理をし職員が買い物に同行し支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある利用者には自ら手紙や電話のやりとりができるように支援している。困難な方には、職員が利用者の意志を伝えるなどの対応をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中くつろいで過ごされているリビングに季節の花々を生け季節感を目で楽しんで頂いている。玄関、廊下等にイベント時の写真を飾り居心地の良い空間づくりに努めている。	外出の自粛から、利用者自ら廊下の往復歩行や、手すりにつかまって足あげ等の体操を行う方もあり、リビングに集まってみんなで楽しく過ごす様相が少し変わってきた感じがする。それでも共用空間は季節感を味わって頂ける様、職員はしっかりと飾りつけなどを行い、居心地の良い場所を提供している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全室個室対応にてプライベートが保たれている。多くの利用者が過ごすリビングにはゆったりとくつろげる様ソファを設置し、写真や手作りポスターを飾り、利用者同士会話が弾む様、工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力で、入居するまで使用していた品を持ち込んで頂いている。	一人ひとりが馴染みの物を持ち込みプライベートな時間をゆったりと楽しめるお部屋作りに努めている。ここではペットの持ち込みも可能ということになっているが、まだそういった方はいない。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を考慮した家具やソファの配置をし、動線をスムーズに出来るだけ自立した生活を支援している。		